

【授業改善推進プラン 6年 国語】

児童の状況	【読む】 ○文章の内容や言葉の意味を、正しく読み取っていないことが多い。 ○情景描写や登場人物の心情について、正しく読み取れない児童がいる。 ○読書量にかなり個人差があり、長文の本を読む児童もいれば活字の本を手にとらない児童もいる。 ○語彙の定着に個人差がある。 【話す聞く】 ○目的や相手に応じて話すことに個人差がある。 ○1度の全体指示で情報を正しく聞き取れず、理解できない児童が複数いる。 【書く】 ○書くことに苦手意識のある児童がいる。 ○主語や述語の整った文章を書くことが身に付いていないため、書いた文章が、問題や条件に合っていないことがある。 ○既習漢字の定着率が低い。
指導についての課題	【読む】 【言語】 ○語彙を増やしたり、教科書にある言葉の意味をすべて確認したりする機会を確保しにくい。 【話す聞く】 ○人前で目的や意図に応じて話す時間を確保することが難しい。 【書く】 ○問題や条件を整理して、文章を書かせる機会を確保しにくい。
授業改善にむけての具体的方策	【読む】 ○単元ごとのねらいを明確にして伝え、問題や条件を正しく読み取らせる。 【書く】 【話す聞く】 ○目的意識（何のために）や相手意識（だれに）などを明確にして、文章を書かせたり、話したりさせる。
読み解く力の育成	【読む】 ○文章中の主語や述語、目的語、指示語などを確認する。 ○文中に出てくる指示語の内容を確認する。 ○文章や話を友達同士交流させ、自分と同じ考えかどうかを判断させる。

【授業改善推進プラン 6年 社会】

児童の状況	○意欲的に学習に取り組む児童が多いが、個人差がある。 ○事実と考えを分けて資料を読み取ることができる児童は一定数いる。 ○ノートに自己の考えや調べたことを自分なりに記述できる児童が一定数いる。 ○友達と話し合いながら、考えを整理したり、まとめたりすることができる。 ○知識の量や意欲に差がある。 ○ICTを使っの検索や、学習のまとめを行う活動の個人差が大きい。
指導についての課題	○指導が単調になりがちである。 ○児童の興味・関心の湧く問いをつくるのが難しい。 ○振り返りの視点が本時のねらいと正対していないことがある。 ○時間数に対して学習内容が膨大で、予備知識のない児童にとってはなかなかテストの点数に結びつかず、意欲を削ぐことになってしまう。 ○地方自治の単元に関して、自分の地域とかけ離れた題材で実感を伴った学習になりづらい。
授業改善にむけての具体的方策	○身に付けさせたい資質・能力を児童の実態に合わせて指導事項に落とし込み、児童と共に共有することで「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」「学びに向かう力、人間性など」をバランスよく身に付ける。 ○シミュレーション活動や体験的な活動を積極的に取り入れる。 ○必ず抑えたいキーワードを定着させるために、毎時間前時の簡単な振り返りから入るなど、児童の思考や知識が整理できるよう工夫する。 ○板橋区の事例を取り上げるなど身近な題材を活用する。
読み解く力の育成	○読み取りのポイントを共有する時間を確保する。 ○分からない言葉は調べるようにする。 ○自分の考えと他者の考えを比較する場面を積極的に取り入れる。 ○グラフや写真資料からわかることをなるべく多く書き出す活動を取り入れ、共有することで多角的な見方を養う。

【授業改善推進プラン 6年 算数】

児童の状況	○学習意欲について、個人差が大きい。 ○基礎・基本的な知識や技能が定着していない児童が多い。 ○習ったことを活用したり筋道立てて考えたりする力、言葉・式・絵や図などを用いて解き方を表す力について個人差が大きい。 ○自分の解き方を分かりやすく説明することに苦手意識をもっている児童が多い。 ○他者の解き方の説明を聞いた際、自分の考えと比べ意見を述べたり質問したりする力が不足している。
指導についての課題	○問題を解くための方法を身に付けさせるために、繰り返し指導を行う時間が確保できない。 ○既習内容の定着に差があるため、必要に応じた既習事項の確認が必要であるが、1単位時間内に時間を確保することが難しい。 ○困っている児童に対してのいくつかの手だてを考えていく必要がある。
授業改善に向けての具体的方策	○授業の初めの問題を工夫する・電子黒板や書画カメラを活用することを通して、児童の興味・関心を高める。 ○既習事項を確認しながら、未習事項の学習につなげる。 ○問題解決において、既習事項をどのように活用すればよいか必要に応じて見通しをもたせる。 ○困っている児童を適宜集め、個に合わせた具体的なアドバイスを行う。 ○ペアや友達に自分の考えを伝える時間を確保し、相手に分かりやすく説明する場を設定する。 ○ノートのかき方・発問や解法でよいものを取り上げ全体に示すことにより、グループ全体の表現力・思考力の底上げを図る。 ○視点を明確に示すなどして、振り返りをより充実させる。
読み解く力の育成	○文章題の内容を確実に理解させるために、「分かっていること」「聞かれていること」に線を引かせ全体で確認する。また、必要に応じ数直線や線分図、絵などを利用し、文章題理解の一助とする。 ○問題を一人一人が考えた後、解決法を書いたノートを児童同士で読み合う時間を設け、他の児童が考えた解決法を読み取る力を伸ばす。 ○解き方を発表する際、初めに児童の解き方を書画カメラ等に写す。そして、どのように解決したのか考える時間を設け、図や表・式などから解き方を読み取る力を伸ばす。 ○定義となる語彙が新たに登場した際、ノートに記載させ全員で読ませたり、当てはまる具体例を考えさせたりすることにより、新しい語彙を確実に定着させる。

【授業改善推進プラン 6年 理科】

児童の状況	○授業を聞く姿勢・態度の個人差が大きい。 ○実験結果からわかることをもとに、より妥当な結論を出すことができる児童が見受けられる一方、思考が深まっていない児童がいる。 ○学習全体を通して苦手としている児童が多く、学力調査でも東京都の平均正答率を下回っている。全国平均を下回っている項目も少なくない。 ○既習事項の定着に個人差があり、これまでの学習をもとに考えることが難しい。 ○実験計画の手順を具体的に考えることが苦手である。
指導についての課題	○児童が自力で実験を進めるため、実験の目的や方法、班内での自分の役割を理解させ、着実にこなせるようにする必要がある。 ○自分で解決方法を発想できない児童のために、児童の理解度に応じて個別の支援をする必要がある。 ○児童の表現力を高めるために、文章例や、過去の学習記録を例示する必要がある。 ○児童が学習により主体的に取り組めるよう、演示実験を見せたり、実験扱いではない「活動」をなるべく児童に実験させるようにし、児童の活動や体験を増やしていく必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○実験方法やその手順を実験の難易度によって、わかりやすく説明したり、自分で教科書の手順を読んで進めたりさせる。また、見通しをもった学習活動を支援するため、必ず予想を立てさせ、班内で意見交換しながら、実験を進めさせる。 ○児童の意欲や自力解決をしたいという思いを高められるよう、身の回りの児童が不思議に感じる事象を提示して授業の導入を行う。 ○ノートのかき方・発問や解法でよいものを取り上げ全体に示すことにより、表現力・思考力を高める。
読み解く力の育成	○「読み解く力を育成するための三原則」を意識した授業展開にする。 ○実験方法や実験結果を、図を用いて表すようにする。 ○疑問に思ったことに対する予想や、実験結果をもとにどんなことが言えるかを考え、表現する活動を行う。 ○観察、実験の結果を表やグラフに整理したり、予想や仮説と関係付けながら文章でまとめてノートに記述したりする活動を取り入れる。 ○児童同士で互いの考えを伝え合い、相違点を確認し合う時間をとる。

【授業改善推進プラン 6年 音楽】

児童の状況	○音楽を形づくっている要素や音楽の構造を聴き取り、それらの働きや曲想との関わりに気付く児童が増えている一方で、複数の要素や構造を関連付けて楽曲全体の特徴を捉えることに課題が見られる児童もいる。（知識・技能） ○曲想にふさわしい表現を工夫したり、音楽的な特徴について考えたりすることはできる一方で、音楽を形づくっている要素や構造を根拠として、曲や演奏のよさや美しさについて自分なりの考えを形成し、他者に伝えることに課題が見られる。（思考・判断・表現） ○粘り強く学習に取り組み、他者の意見を取り入れながら協働して活動する児童が多い一方で、他者との交流や学習の振り返りを通して自らの考えや表現、学習方法を見直し、よりよいものへ調整することに課題が見られる児童もいる。（主体的に学習に取り組む態度）
指導についての課題	○個々の音楽を形づくっている要素を聴き取ることに留まらず、複数の要素や音楽の構造を関連付け、曲想や楽曲全体の特徴との関わりを捉える機会を設定する必要がある。 ○音楽的な根拠をもって自分の考えを形成するとともに、他者の異なる解釈と比較しながら、曲や演奏のよさや美しさについて考えを深める学習機会を充実させる必要がある。 ○他者との交流や振り返りを通して、自分の考えや表現の変化を自覚し、必要に応じて学習方法や表現を選択・修正する自己調整の機会を設定する必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○複数の音楽を形づくっている要素や音楽の構造について、「それぞれがどのように関わって曲想や楽曲全体の特徴を生み出しているか」を考える発問や、図・言葉などで関係を可視化する活動を設定する。 ○同一楽曲の異なる演奏や複数の楽曲を比較し、「どちらがよいか」だけでなく「どのような特徴を根拠に、どのようなよさを感じたか」を説明し、他者の解釈と比較・検討する活動を設定する。 ○交流や振り返りの前後で自分の考えや表現を記録し、「何を取り入れたか」「なぜ変更したか」「変更によってどのようなよさが生まれたか」を振り返る機会を設定する。

【授業改善推進プラン 6年 図工】

児童の状況	○電動ノコギリなどの用具や、絵の具、パステルなどの画材、木材やアルミ線などの材料など、既習事項は一定の経験がある。しかし、そのような知識や技能の定着には児童間に差がある。（知識・技能） ○自分なりに作りたいものを発想できる児童とそうでない児童との差がある。また、自分の作品を客観的に見ることができず仕上がりや完成度が不十分であったり、発想内容に偏りがあったりする児童もいる。（思考・判断・能力） ○図工全般に対して意欲はあり、素直に努力する児童が多い。互いの認め合いの雰囲気を大切にする意識があり、各自が安心して表現を深められる集団である。（主体的に学習に取り組む態度）
指導についての課題	○表現を深める意識がやや低い児童や、技能の定着が十分ではない児童に向けた、より効果的な個別の指導の技術や言葉かけ。 ○児童の発想力を高めることができるような声かけや授業の設定。
授業改善にむけての具体的方策	○めあてに向かって意欲的に活動できるように、テーマや材料を変えながら段階的に経験したり、経験を組み合わせて工夫できる題材設定を行う。 ○児童が思い描くイメージを確かめるための個別の会話を大切にする。 ○自分の考えが形になる達成感につなげる。 ○技能を活用していくために、それぞれの題材で既習事項を振り返る時間や、既習事項を生かしている児童の作品紹介などを行う。 ○各題材に色々な形式・タイミングで鑑賞の時間を設けることで、児童の客観的な判断力や鑑賞の力を伸ばす。 ○色々な発想を取り入れられるよう、クロームブックを児童自身の判断で使い、調べるができるようにする。 ○教師の板書から、児童が自身でめあてを設定し、その時間の取り組み目標を持つ。併せて、そのめあてをもとに、その日の活動を振り返る活動を設定する。

【授業改善推進プラン 6年 家庭科】

児童の状況	○裁縫において、手を使うことが少なくなっている児童もいるため、時間に差がある。 ○調理において、高い興味・関心をもって取り組んでいる児童が多い。その一方で、家庭での生活経験の差が大きい。 ○片付けにおいて、目的感をもって取り組める児童とそうでない児童との差が大きくなっている。 ○生活時間を見直す単元において、見直した結果、実生活に生かそうと頑張る姿が見られた。
指導についての課題	○掃除・洗濯の場所について、実施できる場所が限られている。 ○調理の際、経験の豊かな児童が実践してしまい、経験の少ない児童の実践時間が少なかったり、時間がかかってしまったりすることがある。 ○学校で学習したことと家庭での実践を連携させたいが、実際は家庭状況によるので難しいところがある。
授業改善にむけての具体的方策	○保護者ボランティアの協力により、個人のつまずきを支援する。 ○児童同士の学び合いを積極的に行わせ、技能を高められるようにする。 ○動画や実演など、視覚的な支援を充実させる。 ○学年便りなどで学習内容をアピールすると同時に、家庭の協力を仰ぐ。
読み解く力の育成	○教科書の調理手順、裁縫手順を見て、写真と説明文を一致させる。 ○教科書の調理手順、裁縫手順を見て、同じように実践できるようにする。 ○作業手順の一つ一つの意味や効果を理解しながら教科書を読む。 ○教科書に書いてあることと実生活を結び付けて思考したり実践したりする。

【授業改善推進プラン 6年 体育】

児童の状況	○高い意欲・関心をもって取り組んでいる児童が多い。 ○めあてをもって学ぶことができるようになってきている。 ○技や技能のポイントの理解に差があるため、互いに見合ったり教え合ったりすることに課題が見られる。 ○基本的な技能の定着に課題が見られる。 ○体力テストの結果から、特に持久力や筋力、瞬発力において課題が見られる。 ○競技ごとの知識・技能の個人差が大きく、主体的な学びや学習意欲の継続に繋がりにくい課題が見られる。 ○自分たちでルールを考え、工夫して取り組むことができる児童が少ない。
指導についての課題	○運動が苦手な児童に対する手だてが不足している。 ○基礎的な技能を定着させられるような手だてが不足している。 ○体育館や校庭など、天候に左右されない十分な活動場所の確保が難しいため、授業の中で運動量の確保と基礎的な体づくりを行う手だてが必要である。 ○次時へ繋がる活動内容の振り返りの徹底と、全体で共有する時間の確保に課題が見られる。
授業改善にむけての具体的方策	○スモールステップで技能を身に付けられる場や時間を設定する。 ○学習カードや資料、学習展開や学習形態を工夫することで、互いの動きを見合ったり教え合ったりすることができるようにしていく。 ○必要に応じてタブレット端末で課題に沿った動きの動画を撮り合い、自分の動きを振り返って課題を見つけさせ、解決に向けて取り組ませる。 ○準備運動の時間を10分程度確保し、持久力や筋力を高められるような運動を取り入れる。 ○グループごとの話し合い活動を増やし、児童が主体的に活動に取り組み、課題解決を図る時間を設けていく。 ○振り返りの書き方や見本を掲示し、個人の振り返り時間を設けた上でさらに全体で共有する場を毎時間設けるようにしていく。

【授業改善推進プラン 6年 総合的な学習の時間】

児童の状況	○学習意欲が高く、主体的に取り組む児童が多くいる。 ○他者と協力して取り組むことに課題をもつ児童がいたり、配慮を必要とする人間関係があったりする。 ○見通しをもって計画を立てることや、よりよい解決を目指して粘り強く取り組み続ける力には個人差が見られる。 ○情報収集の手段がインターネット検索に偏る傾向があり、調べたい内容や目的に応じて文献や取材など適切な方法を選択することに課題がある。表現・発表の場面においても、伝えたい相手や内容に応じた効果的な方法を選択・工夫することに課題が見られる。
指導についての課題	○単元を通して児童の興味・関心を高めるとともに、見通しをもって粘り強く探究が続けられるよう、学習プロセスや評価の工夫等の意欲を持続させる手だてを講じる必要がある。 ○人間関係の配慮や協力関係の構築を踏まえた適切なグループ分けが必要である。 ○インターネット、文献、取材など、各種調査手法や表現方法の特徴について指導し、複数の情報を比較・吟味しながら目的に応じて自ら選択・活用する機会をつくる必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○課題に対して「自分と身近な問題である」と捉えることができる手立てを工夫していく。 ○振り返りシートやルーブリック等を活用し、見通しをもって粘り強く取り組む意欲を持続させる。 ○インターネット・文献・取材など各種調査手法やまとめ方の特性を指導し、探究の目的に応じて自ら選択させる。

【授業改善推進プラン 6年 外国語】

児童の状況	○今までの学んだ表現を使って、コミュニケーションを取ろうとする児童が見られる。 ○発音やスペルについて、慣れ親しもうと意欲的に取り組む児童が多く見られるが、個人差があり、意欲の低い児童も一定数おり二極化が見られる。 ○外国語に対する苦手意識を、すでにもっている児童がいる。
指導についての課題	○教師が、中学校での学習を見通した指導をより学ぶ必要がある。 ○チャンツやゲームを取り入れながら、楽しんで発音やスペルに慣れ親しむ活動の工夫が必要である。 ○教員の指導力の向上を図るとともに、ALTと打ち合わせも含め連携を図りながら指導にあたる必要がある。
授業改善にむけての具体的方策	○毎回の授業の中で、小学校段階で身に付けるべき知識や技能を扱った活動を取り入れ、習得を目指す。 ○ワークシートを工夫し、交流する場面を増やし、発話の機会をより増やせるようにする。 ○授業の進め方や役割分担などを計画し、ALTとの連携を図る。
読み解く力の育成	○デジタル教科書を活用し、絵を見たり音声を聞いたりして、視覚的に内容理解を促せるようにする。必要に応じてALTや教師が補足の発問をして、学習内容について考えることができるようにする。 ○様々な場面で習得した表現に繰り返し慣れ親しみ、自分の気持ちや考えに必要な表現の習得につなげる。

【授業改善推進プラン 6年 特別の教科 道徳】

児童の状況	○道徳的価値を学んだ後、日常生活において実践しようとする意欲はあるが、その意欲が継続しない児童もいる。 ○道徳的価値について、ある程度理解している児童が多い。 ○友達と話し合う中で、考えを深めようとする児童が多い。 ○実践しようとする意欲はあるが、その意欲が継続しない児童も多い。 ○議論の際は、様々な視点から道徳的価値について意見を出す児童が多い。 ○議論から考えが深まったり、新たな意見を発想することには個人差がある。 ○主体的に考えを深めることに関しては、個人差が大きい。
指導についての課題	○読み物教材の活用を中心としているため、自分事として捉えにくい場合がある。 ○自分事として真剣に向き合える学習展開をする必要がある。 ○内容項目によって、児童の意欲に差が出る。
授業改善にむけての具体的方策	○資料を集めたり多様な指導方法を取り入れたりする。 ○少人数での話し合いを積極的に取り入れ、全員が主体的に参加できるようにする。 ○具体例や児童にとって身近なエピソードを取り入れ、自身の経験を想起して考えられるようにする。 ○めあてを示し、めあてに対する振り返りの時間を5分程度設定する。 ○教材文で学習した後、日常生活で起こりうる場面や導入での発言を具体的に取り合げて考える時間を設定する。 ○振り返りの中で、教材文からの学びを入れて、今後の自己の生き方を考えるように指導し、教材と実生活とが結び付くようにする。 ○活発な意見交換が予測されるよう中心発問を工夫して提示する必要がある。
読み解く力の育成	○考えたことが言語化できるよう、話し合ったことが記述できる授業展開を意識する。 ○発問などを通して、児童が読み物資料の内容を理解できるようにする。また必要に応じて、動画や写真などを見せることで、読み物資料の内容の理解を深めることにつなげる。 ○振り返りでは、既習事項や既習体験などをもとに、自分の気づきなどを書かせるようにする。